

## 大林監督偲ぶ「風の谷 野のおもひで館」開館

2020年4月に82歳で亡くなられた映画監督の大林宣彦さんに関する作品などを展示する「風の谷 野のおもひで館」が9月24日、本町1131番地にオープンしました。

同館は、芦別と縁が深かった大林さんの足跡を紹介するため、大林さんと親交があった市内在住の石川睦子さんが私財

を費やし建設したものです。

大林さんは「星の降る里・芦別映画学校」の校長を務めたほか、芦別を舞台にした映画「野のなななのか」を制作。また星の降る里あしべつ応援大使として、芦別のPRにも尽力いただきました。

石川さんは「監督の人柄や思い出を多くの人に伝えたい」と話していました。



## 3年ぶり芸術・文化の秋、にぎやかに市民芸術祭が開催



第64回芦別市民芸術祭が10月1日と2日、市民会館と青年センターで3年ぶりに開催されました。

青年センター体育館では、絵画や書道、フラワーアレンジメント、盆栽、写真などの作品のほか、みどり幼稚園や小中高校生の絵画、書道などの作品も特別展示されました。

また、2日は市民会館大ホールで、大正琴サークルや民謡連合会、市民吹奏楽団、スターキッズ・ダンスMaxなど芸能部門の団体がステージ発表を行いました。

コロナ禍で日ごろの活動が制約された中、練習の成果を披露して、市民の目を楽しませていました。

## カナディアンワールド公園で最先端林業機械を展示実演

CHB北海道木質バイオマス機械協議会主催による「2022北海道森林・林業・環境機械展示実演会in芦別」を、10月2日、3日の両日、カナディアンワールド北駐車場で開催しました。

空知管内では初の開催になり、展示実演会には、24社の機械メーカー

が参加。

出展ブースでは、安全な木材搬送を実現するタワーヤーダーをはじめ、全自動木質バイオマスボイラーの構造模型の展示など、木質破砕機、選別機等各種の関連機械を見ることができました。また、会場近くの市有林では実演が行われました。



## 市内初のワーケーションモニターツアー開催



市は初めてのワーケーションモニターツアーを東京発着で10月5日から3泊4日の日程で実施しました。

同ツアーは交流人口や関係人口の拡大を目的に行われたものです。

参加者は6社から8人が応募、滝里湖の臨時ワークスペースで仕事をし、カヤック体験やバーベキューを

したり、また、滞在中はレンタカーで市内観光をしながら、公共施設や用意された共用ワークスペースでも仕事を行いました。

IT関係の仕事をしている男性は、「初めての参加で、自然がきれいでお米もおいしく、仕事もはかどります。」と感想を述べていました。